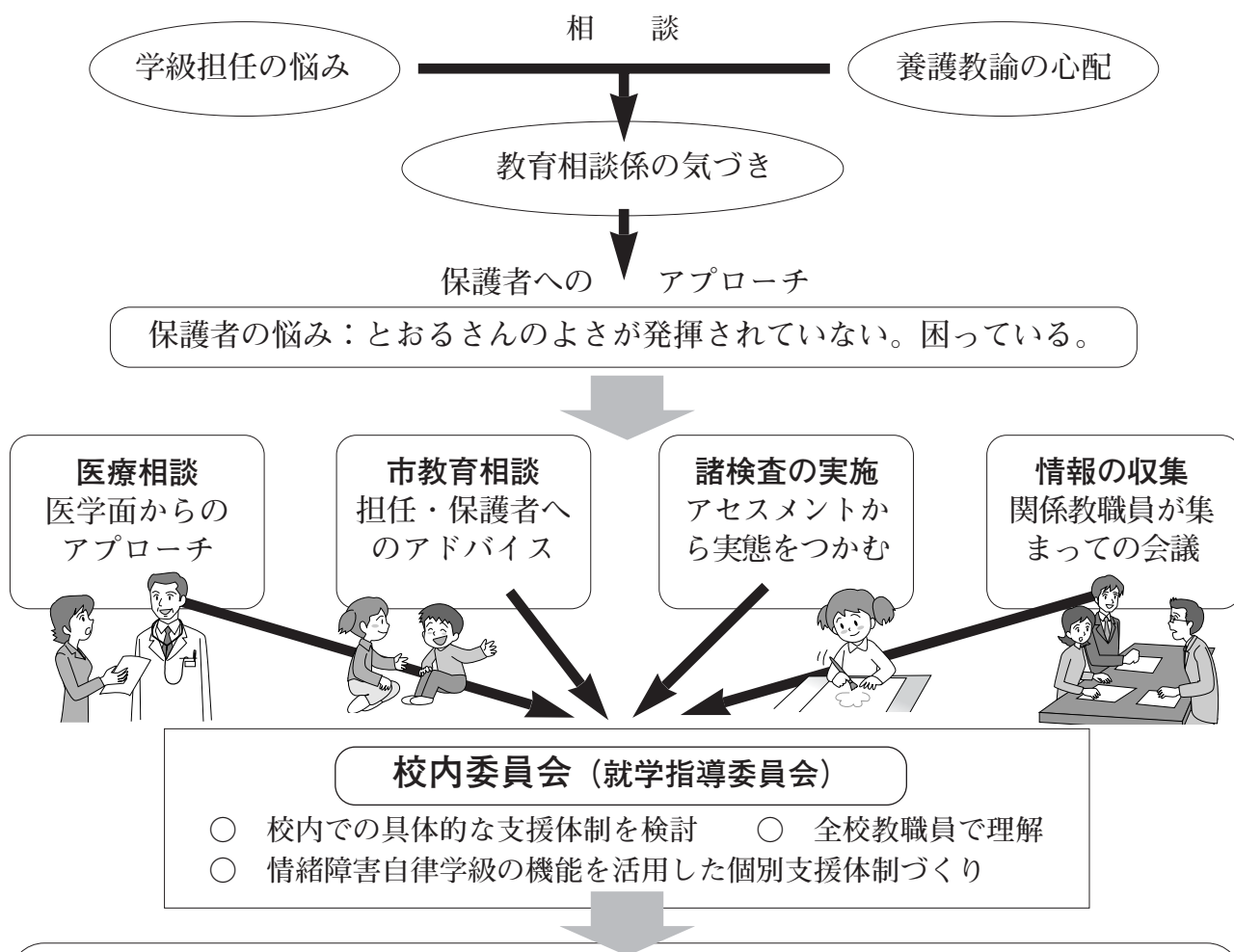


事例
4体の不調を訴えて保健室へ行くようになったとおるさん
(小学校3年) ADHD (注意欠陥/多動性障害)

とおるさんは、釣りや歴史・科学など、興味をもったことについては物知りで、仲がよい先生や友だちとはおしゃべりが止まりません。でも、授業中や大きな行事の前には頭痛や腹痛・吐き気を訴えて保健室に行くことが多くなりました。生活全体に活力がありません。



<支援のポイント>

- 1 教育相談機関・医療機関との連携
- 2 通常の学級に主体を置きながら、情緒障害自律学級の間を利用する個別支援体制
- 3 家庭との連携 (休息とエネルギーを蓄えるやすらぎの間、家庭教師)

とおるさんは、「実験タイム」で生き生きと活動する姿を見せました。学級の友だちに活動を発表したり材料集めを依頼したりする中で、友だちの名前も覚え始めました。漢字練習を自主的に始めるなど、学習への意欲も少しずつ回復してきています。

「実験タイム」の活動内容

- ・スライムを作ろう
- ・べっこうあめを作ろう
- ・タタイ・テ・ピザ
- ・カマ・デ・ショコラ
- ・わたあめ製造器 など

● 1日に何度も保健室に行くようになったとおるさん

とおるさんは、頭痛や吐き気を訴えては保健室に行くようになりました。授業中も活力がなく、机に突っ伏している姿が目立ちます。担任は、心の不安定さが体調に表れてきているのではないかと考え、保健室での対応を養護教諭にお願いするとともに、教育相談係に相談しました。

一つずつ声を掛けないとノートや教科書を用意せずボーッとしているように見えるのに、授業が終わると「ああ、疲れたあ」と言っていることや友だちとのかわりが薄くなっていることから、より詳細な実態把握と考察が必要だとアドバイスを受けた担任は、早速保護者に連絡を取りました。

●実態把握と考察・医療相談

母親は、家庭でも学習の理解や定着が悪くなってきたこと、帰宅後の過ごし方も活力がないことを気にしていました。数回の懇談後、とおるさんが力を発揮できないで困っている現状を正しく理解するための心理検査の実施について、保護者の了解を得ることができました。

個別式心理検査の結果、注意を集中させることに大変努力が必要であることが分かりました。言語による論理的な思考の苦手さももちあわせていました。

医学面からのアプローチが必要なことも予想されたので医療機関への相談を勧め、受診していただきました。とおるさんはADHDと診断され、薬を服用することになりました。

●生き生きとした学校生活をつくり出すために —情緒障害自律学級の機能の活用—

薬の服用と併せて学校生活の見直しをしました。文を読んだり書いたりすることは苦手でしたが、安心できる先生や友だちのおしゃべりが好きでした。興味をもったことについては、ニュースやテレビ番組で見聞きしたこと、おうちの人と話したことなどをどんどん吸収し、自分の情報にしていきます。科学的な事柄にも関心をもっていることが分かりました。

そこで、情緒障害自律学級で週に1回（放課後）、いろいろな実験や工作に取り組む「実験タイム」を設けることにしました。しんごさんと2人で活動します。活動の中では毎回プリントが用意され、読む・書く・待つ・活動を振り返る・片付けるなど、とおるさんが必要としている学習スキルを身に付けることをねらいました。好きな活動なので頑張ることができ、自分のペースでゆっくりたくさんおしゃべりできて、楽しく明るい雰囲気の中で失敗してもあきらめずもう一度チャレンジする姿も見られました。3年生のクラスの友だちに「実験タイム」の活動を紹介したり材料の寄付を呼び掛けたりする場面では、堂々と発表することもできました。

通常の学級では、座席を工夫したり指示を一つずつ短く分けてできたかどうか結果を確認したりするなど、担任が授業の工夫を続けていきました。

●家庭生活での工夫 —保護者と同じ歩調で—

母親との相談は定期的に重ね、なかなかとれない疲労感にゆったりと寄り添っていただくようお願いしました。父親もおるさんをゆったり見守ってくれました。学習については、お兄さんのようにかかわってくれる家庭教師をお願いし、学習への意欲も少しずつ回復してきています。

とおるさんへの支援の実際を紹介します。



1 実験タイム

- 日時 毎週月曜日（低学年下校 2：15）の放課後 2：15～3：30 を充てる。
- 参加者 とおるさん（小学校 3 年生）
しんごさん（小学校 3 年生）
- ※ 授業参加については、保護者の了解を得ています。
- 場所 情緒障害自律学級の教室
- 指導者 情緒障害自律学級担任

<ねらい>

（1）自分の興味ある活動を中心に据えることで以下の学習スキルを身に付けることができる。

- ① よく説明を聞く（聞き取る）。
- ② よく説明を読む（文字に積極的に触れる）。
- ③ 順番を守る。
- ④ 待つ。
- ⑤ 予想する。考える。それを言葉に表す。
- ⑥ メモをとる。
- ⑦ 片付けをする。
- ⑧ 活動を振り返る。

（2）充実感・満足感を味わうことができる。



- 学習の流れ
 - （1）はじめのあいさつ
 - （2）今日やることの確認
 - （3）約束の確認
 - ① よく聞く・よく読む・よく考える。
 - ② 席を離れている間は実験をストップする。
 - （4）プリントを読みながら、実験を進行

2人に相談し形式を決定
横書き・罫線なし・14ポイント、行間広く、
文字を色分けする。

－ 1 －

実験タイム カルメ焼きを作ろう

月 日

「べっこうあめ」に一工夫で「カルメ焼き」ができるよ。タイミングがむずかしいので、おいしくできるまで何回でもちょうせんだ!!

<材料>

- ・ さとう
- ・ 水
- ・ 重曹（じゅうそう）

<その他 用意するもの>

- ・ マッチ
 - ・ 燃えさし入れ
 - ・ アルコールランプ
 - ・ わりばし
 - ・ たまじゃくし
- アルミカップで失敗してしまったので、たまじゃくしにしてみます。

－ 2 －

<カルメ焼きを作る>

- ① たまじゃくしにさとうと少しの水を入れる。
* 水の量に注意！ べっこうあめの作り方のコツを生かしてね。
- ② アルコールランプに火をつけ、たまじゃくしをかざして、熱を加える。
- ③ □になったら、たまじゃくしを火からおろし、すばやく重曹を少し加えて、わりばしで一気にかきまぜる。
- ④ ゆっくりとふくらむので、固まるまで30秒間くらいそのまま待つ。
- ⑤ もう一度火にかけ、たまじゃくしのふちのカルメ焼きが少しとけたら、アルミホイルの上にひっくり返す。ポンと落ちて、できあがり。

<アルコールランプの使い方>

- * べっこうあめのときのプリントを見ましょう。
- やくそく 火のあつかいには注意！
やけどをしない。

* 実験中のつぶやき・おしゃべりは歓迎、自分なりの工夫も大歓迎、失敗も大・大歓迎

- (5) 片付け・まとめ
- (6) 終わりのあいさつ
- (7) (宿題)

* 今日やったことのプリントを見せながら、保護者に報告する。

- 3 -
 〈ここから一工夫〉
 重曹を入れるタイミングがむずかしいよ。うまくふくらむかどうかはタイミングしだいです。どんなタイミングがいいか、何回かちょうせんして、みつけてみよう。
 (以下省略)

- 学習参加の様子を知らせる。
- ・親子の話題にしていただく。
- ・頑張ったことを大いに認めてもらう。



別の日に、親との懇談時間を設ける。

2 通常の学級の中での授業の工夫

- (1) 座席を前の方にする。
- (2) 指示を出す前に、注意が向いていることを確認する。
 → (必要に応じて) 座席の近くに行く、肩に手を置く。
- (3) 指示は短く、一つずつする。
 → できているか結果を(目で)確認する。
- (4) 教科書やプリントへの色付けをする。
- (5) とおるさんが活躍できる場をつくる。=物知りな面、生活体験の豊かさを生かす。
- (6) 休み時間や放課後にとおるさんとのおしゃべりを楽しむ。



3 行動の変容

- (1) 薬を服用し始めてから、授業中に自分から教科書やノートを開くようになりました。板書をノートに視写するようになり、授業に参加している場面が多くなりました。
- (2) 頭痛を訴えることが少なくなりました。
- (3) 帰宅後、一人で宿題をやるようになりました。友だちとも誘い合って遊ぶようになり、母親から「生活全体が生き生きとしてきたようです」という連絡を受けました。
- (4) 学級担任以外に情緒障害自律学級担任も加わったことで、話をしたり甘えたりできる存在が増え、休み時間や放課後、話したいことがあるとおしゃべりしていくようになりました。
- (5) 「実験タイム」参加者の2人とも薬を服用していたことが、「ぼくだけじゃないんだ」という安心感になっていたように感じます。2人がお互いの薬のことを話したり、母親同士も情報交換ができたようです。